

かもしれない」と話した。

また、磯焼けが全国的に起きていることに関して「磯焼けの原因はその地域によって違うが、地球温暖化は今後も進んでいくので、いまは植食性魚類の被

害が少ない日本列島北部でも、いずれは杵岐と同じ状況に陥るかもしれない。杵岐でしっかりとした事例を作り、それが全国の磯焼け対策につながるようになれば嬉しい」と話した。

富裕層インバウンド受け入れるには

雅縁の和田代表が講演

市は14～15日、通訳案内士を招いたモニターツアーを開き、海外からの旅行者（インバウンド）受け入れの体制強化を図った。2日目には富裕層に特化した高品質な旅行サービスを手掛ける雅縁株式会社（東京）の和田瑛子代表が講演した。

モニターツアーには

観光案内士ら10人が参加。フグの陸上養殖場や一支国博物館、観光名所など巡った。講演は杵岐の島ホールであり、市内観光事業者らが出席した。

和田代表は、富裕層のインバウンドに向けた観光案内の手法など説明。「迅速かつ臨機応変な対応が重要」と

し、「癒しを求めて日本に来る方が多い。観光客が少なく観光コンテンツが優れた場所を、あえて案内させてもらっている」と述べた。

講演する和田代表



また「（辰の島の）遊覧船に乗せてもらったが、素

晴らしい景観だった。クルーズ船があればシャランパンとつまみを置いて何十万円の商品作れると思った。それが杵岐にしかない景観で、それを求めてお客様が来ると思う」などと述べた。

さらに「（低塩分陸上養殖は）フグの養殖場では世界初という言葉を聞いた。お客様はこれが一番食い込む。その場所にしかないものは遠くても行く。フグと金魚が一緒に居られる環境に驚いた。大々的に出してほしいくらいだ」と絶賛した。

SNSによる情報発信については「（富裕層は）誰でもできることはしたくない。SNSでは発信しない」とした。

また、通訳案内士の閑散期の過ごし方について「全員頭にアンテナがついている。常にどこに行っても外国人が何に興味があるか、電車の中吊り見てもニュースを見ても常に考えている。閑散期にはテーマに沿って研修し、どんな質問が来ても答えられるようにしている」とした。

中国人は支払いにアプリを使っていることについては「アプリを準備するのは大変だから、港に両替機を1台置いてほしい」と要望した。

インフル流行期入り
市内での感染者は0

杵岐保健所は18日、第37週の感染症動向調

船舶の処分
売買のご用命は
岡本機械まで

◎産廃全般収集運搬承ります◎
TEL0920-48-5265
携帯 090-3416-8929

